

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	文京区本駒込 1 - 2 0 - 1 9
園名	このえ本駒込保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

危険予知

<テーマの設定理由>

【テーマ】オリジナル表現映像（歌・ダンス）の作成を通じた「保育者・子ども達・保護者」三位一体を目指した生きた安全計画の布石を作り

1) 教え込む安全から、子どもが自ら気づき、家庭と共有する安全対策へ背景とねらい
2023年度より「安全計画の策定」が義務化されましたが、本園ではこれを単なる書類上の体制整備で終わらせないことを目標としています。これまでの保育現場における安全指導は、大人が「危ないから気をつけて」と一方的に教え込むことが多く、園外の散歩時や日常生活における子どもたちの「危険予測・回避行動」として定着しづらいという実課題があった。そこで本園では、安全計画の実効性を高めるための基盤として、「保育者の専門性向上」「子どもの危険予知能力の育成」「保護者への確実な周知」の3つを柱とし、その具体的なツールとして『オリジナル表現映像（歌やダンスなどの教材）』を新規作成するテーマを策定した。

・子どもが自発的に危険に気づく「遊び」への変換

「安全」という抽象的な概念を座学で教えるのではなく、子どもたち自身が「何が危険か」を考え、調べ、安全な環境下で実験して確かめるプロセスを「一つの遊び」として展開していく。この調べ学習やグループ活動を通して、危険予知を園全体に広めて事ができる。

・日常の歌やダンスを通じた「回避行動」の体得

本園の子どもたちの発達段階に合わせ、安全ルールを組み込んだオリジナルの「歌やダンス（音・声・動き）」を開発します。頭で覚えるのではなく、日々の楽しい表現活動の中で身体を動かすことで、いざという時の危険回避行動を無意識レベルで自然と体得させる事が出来る。

・教材作成を通じた「保育者の視点」のアップデート

既存の教材を買うのではなく「一から企画・作成する」プロセス自体が、全保育者にとって「子どもの目線に立つと、どこに危険が潜んでいるか」を再確認する実践的な研修（学びと演習）と考えた。

2) 家庭（保護者）との連携による地域防犯・安全への波及 園内での取り組みにとどめず、作成した教材映像や、それを使って生き生きと学ぶ子どもたちの様子を ICT（保育支援アプリ等）を活用し保護者へ迅速に配信します。保護者会や保育参観でも公開することで、「園で学んだ安全の歌やダンスを、家庭でも一緒にやってみる」という流れを作り出し、園と家庭が一体となった実効性の高い安全対策体制を構築する事が出来と考えた。

2. 活動スケジュール

9月：地震発生による、避難訓練実施。

ケガについて話し合いをグループで実施。

ケガについて看護師から保健指導を受ける。

園内ハザード探し。（グループ活動）

衝突実験

10月：園外ハザード探し。（公園内はグループ活動）

入園のしおりの内容確認。看護師より指導。

動画作成

12～1月：動画完成。視聴。

小さい子にもできる振りを考える（グループ活動）

2月：生活発表会でダンス披露

ケガをしない、危険を素早く察知できる感覚を研ぎ澄ます栄養や食べ物について、栄養士より食育活動

3月：危険予知オリジナル献立作成（グループ活動）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ① 【はたらく細胞】の絵本：人体について関心を促す。体の仕組みや健康について自発的に調べ学習に繋げる。
- ② 【軽量マット】：衝撃実験に使用。
- ③ 【危険予知動画】：ダンス動画を作成。楽しい音楽と危険予知に関する振りのダンスを作成し、小さい子も日常的に危険予知を意識していく。
- ④ 【生活発表会の実施】子どもたちが考え、保護者の方含めて周知していくために考えたダンスを意欲的に発表できる時間と場所を設定。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①避難訓練を通して、園内でケガをする状況は「地震」だけなのか？日々の生活における危険はないのかを考え、意見を出す。
- ②園内でのケガをする状況から、ケガをしたらどうなるのかを園の看護師に指導を受ける。
- ③園外ではケガをしないのか？散歩に出た際に、散歩ルートや、公園内のハザードを探す。また、散歩に行く際に入園のしおりに定められている服装の意味（長袖・長ズボン着用）について園の看護師から指導を受ける。
- ④園外では、不審者がいるかもしれない。その時どうしたらいいかを考える。
- ⑤日常的に意識できるよう、「危険予知」のダンスを専門家と保育者が製作し映像化。
- ⑥0, 1歳の子どもでも内容を理解し、模倣して踊れるようにするため、子どもたちと保育者がダンスの簡単バージョンを作成。2月の生活発表会にて2～5歳児クラスで披露。保護者へも周知する。
- ⑦ケガをしない体や、周りの人に助け呼ぶ大きな声を出す体を作る食べ物を考える。必要な栄養素や食材を園の栄養士に教えてもらう。
- ⑧危険に備えられる体のための献立を考える。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

地震の時ってなぜ頭を守るのかな？

頭から血がでちゃうから？

痛いから？

保健指導

避難訓練

衝撃実験

何で体の中で一番頭を守らないといけないのかな？

脳は体のリーダーって聞いたよ。マットがあればぶつかったの痛くないね。

The image shows a collage of photos and speech bubbles. The top photo shows children in a room wearing yellow protective hoods, with a speech bubble asking '地震の時ってなぜ頭を守るのかな？' (Why do we protect our heads during earthquakes?). Another speech bubble asks '頭から血がでちゃうから？' (Because blood comes out of the head?). A third speech bubble asks '痛いから？' (Because it hurts?). Below this photo is a blue box labeled '避難訓練' (Disaster Drill). To the right, a yellow speech bubble asks '何で体の中で一番頭を守らないといけないのかな？' (Why do we have to protect our heads the most in our bodies?). Below the top photo is a blue box labeled '保健指導' (Health Guidance). The bottom photo shows a child in an orange shirt standing next to a mannequin head, with a speech bubble saying '脳は体のリーダーって聞いたよ。マットがあればぶつかったの痛くないね。' (I heard the brain is the leader of the body. If there's a mat, it won't hurt when I bump into it.). Below this photo is a blue box labeled '衝撃実験' (Impact Experiment).

小さい子にもわかる振り作り



汚れた時や、みつけた時は
触らないで「せんせい！」
て呼ぶんだよ。

園内ハザード
を小さい子に
教える写真



入園のしおりに記載の、戸外活動に
適した服装を小さい子に教える。



転んだり、ぶつかりした
ときでも、洋服が守ってく
れるよ。

水道の近くは滑りやすい
よ。水道に頭をぶついたら
脳がこわれちゃうかも。

生活発表会：危険予知ダンス披露



体にいい献立作り



目にいいメニューを
考えました。
ほうれん草は実はル
テインが多く入っ
ていて、目にいいのが
わかりました。



グループごとで体に
いい献立を考えました。
【給食室横に掲示】

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

これまで「危険予知」は保育者の責務と考えていましたが、子どもたち自身も「身を守ること」の必要性を切実に感じ、生きる力を獲得しようとしていることに気づかされました。探究活動を遊びの一環として取り入れたところ、子どもたちは真剣に調べ、知る喜びを享受していました。さらに、継続的なアウトプットの機会が、知識を主体的にブラッシュアップする姿勢を引き出しています。学びに対する好奇心が意欲を醸成し、園生活の充実に直結することを再認識した取り組みとなりました。